

NPO 法人 ゆい ー第2号ー

～子どもの育ちを見つめよう 未来を語ろう 手をつなごう～

ー第2号を発行するにあたってー

前回（5月15日）創刊号を発行して、はや4か月。
いろいろな方々のご協力やご参加で、予定していた活動が計画通りに、そして無事に終えることができました。

そこで今回は、活動報告をそれぞれの担当からしてもらい、皆様とともに、その豊かな時間と成果を共有したいと思います。

10月には、めでたく法人設立1周年を迎えます。

今回の活動報告を糧に、メンバー一同、これからも多くの方々とつながり、共に有意義で充実した時間を積み重ねていきたいと思っておりますので、応援よろしくお願いたします！

理事長 高木

目次 1. ゆい活動報告 (p2～p5)

1)「わいわいこどもキッチンぶらす」 (5月～8月)

2)講演会～子どもを取り巻く今を考える～(西南学院大学コミュニティーセンター)

【第1回 テーマ「血縁関係のない親子の問題」】 (6月4日)

3)姪浜商店街夏祭りに参加しました (7月16日)

4)姪北校区夏祭りに参加しました (7月22日)

5)子どもゆめ基金助成事業 「森へ行こう！(親子で沢登り体験)」 (8月19日)

6)わいわいこどもキッチンぶらす 「1周年感謝イベント」 (8月25日)

2. 平成29年度9月からの活動について (p6)

1)福岡市補助金事業「わいわいこどもキッチンぶらす」(6月以降)



「きょうは何作るんだった？」とドアを開ける M ちゃん。すでに仲良し二年生 3 人がエプロンを着け、手を洗いながら楽しそうに話している。私もすぐに仲間入り。

Y さんからきょうのメニュー「冷麺とポテトサラダ」の作り方を聞く。

その間に次々と仲間がやってくる。自己紹介して活動開始。

私は前にやったポテトサラダを作る。じゃが芋を切りゆがく。きゃうりは切って塩もみ、ハムも切る。子ども包丁なので安心。

ゆであがったじゃが芋の皮をむき、ビニール袋に入れゲンコツでつぶす。

みるみる形がペッチャンコ。みんなで交代でやった。ニニに他の材料入れてマヨネーズも加えてもむ。

家でもやってみよう！味見すると美味。早くできたので冷麺の具の薄焼き卵を切る。

太め、細め、つながり状…きれいな黄色！

ボランティアの N さんに「卵が新しいと黄身がきれいで美味しいね」と言われた。

冷麺に卵・きゃうり・ハムを自分たちで盛りつけ、ポテトサラダも器の中に。

デザートは冷たいフルーツ缶、これは寄付で頂いた品。

どれも自分たちで作ったからおいしい！！

おかわり自由でおなかいっぱい食べる。器も自分たちで洗った。

昼からは工作。もうすぐ七夕さまなので飾りをつくったり、千代紙で織姫・ひこ星を折って台紙に貼る。短冊に願い事を書いた。

「そらをとべるようになりたい」

7月2日のことでした。

担当:安武理事

～見て、見て、じょうずでしょう?!～



～自分たちで作る料理っておいしいよ!～

2) 講演会～子どもを取り巻く今を考える～〔西南学院大学コミュニティーセンター〕

第1回テーマ:「血縁関係のない親子の問題」

6月4日(日)

講師 西田 知佳子 特定非営利活動法人環の会理事 (精神保健福祉士 社会福祉士)

参加者 30人

—午前部の部(西田さんの講演)—

日本における養子制度は家を守るものとして機能してきたが、1987年に民法が改正され、普通養子以外による特別養子縁組が可能になった。「環の会」の第1代目代表の横田和子は特別養子縁組制度の設置を訴えた菊田昇医師(1973年菊田医師赤ちゃん斡旋事件)の考えに共鳴し、福祉の勉強をしながら国内における特別養子縁組の活動のために1991年に環の会を創設した。

「環の会」は、産みの親のカウンセリング、育ての親のカウンセリング、研修会などをしながら、生まれる(た)子どもと養子先の夫婦のマッチングをすることを目的としているが、その際、「環の会」では、養子縁組の条件として、①子どもには、孤立し、辛い思いを抱えて妊娠した産み母による DOHaD、Developmental Origins of Health and Disease といわれる胎児期の影響があるので、育ての親は、子どもが小学校入学までは仕事をやめて子育てに専念すること、②育ての親の年齢制限を厚生労働省のガイドラインに従い45才以下とし(かつては35才以下)、また、③子どもを選ばない、選べないという原則から、子どもの人種、障害などの情報は事前に知ることができない、④テリング telling という真実告知を行い、産みの親と育ての親というママが二人いるということをはじめから明らかにする、ことを条件としている。マッチング後も産み母の支援、育ての親子の研修や交流会を行ってケアをする。マッチングなどの諸費用は育ての親の負担として、年によって異なるが、実費分で90万円くらいである。このような厳しい基準を敷いても里親になるという人々は、子どもの福祉の大切な社会資源であると考えている。

次に、「環の会」通して特別養子制度を利用した方々の具体事例をあげて、その産み親の困難な状況、子どもがどのように産みの親をとらえるかなどについて話された。また、「環の会」が扱った220件の3分の1の産み母は中・高校生の若年出産であり、小学校高学年からはっきりした性教育をし、「望まぬ妊娠」を避ける必要がある。また、乳児院に子どもを預ける産み親は概して肉親との縁が薄く、自分の産んだ子どもを養子に出すことを非常に嫌がる傾向にあるが、現在のところ産みの親へのケアはまだ不足していると思う。最後に日本財団の特別養子縁組のアンケート調査によると特別養子縁組の子どもの方が一般養子より、自己肯定感が高いことが明らかになり、「環の会」としては嬉しいデータであった。

—午後部の部(討論会)—

「環の会」の、育ての親の条件として、「小学校入学前までは専業主婦でなければならない」ことについて、最近の非正規雇用化、企業間の競争激化の中で、現実と乖離しているのではないかという議論が出された。また、子どもの発達には、親子の間で育つものと同時になかまの中で育つものもあるので、親子の関わりだけを重視するというものではないという意見が出された。また、「環の会」を介して3人の子どもと特別養子縁組をした吉田夫妻が出席されており、吉田さんの子育て体験、個々の子どもの様子、きょうだい間の関係などの興味深い実態をご紹介いただいた。また、特別養子縁組の子どもは発達障害の子どもが多いことも現実であり、産み親の家庭環境の厳しさの連鎖、輪廻をどこかで断ち切るために、育ての親は徹底して子どもに自らを没入する必要があると思うという意見もあった。「環の会」では、親同士での交流会や学習会を行ったり、困難を出しあって、話し合ったり、助けてもらったり、子育てには、オープン化や連帯が大事であることなど、吉田さんのお友達、学生も参加して、活発な討論になった。

担当:山崎理事

3) 姪浜商店街夏祭りに参加しました 7月16日(日)

姪浜商店街の夏祭りに「ヨーヨー釣りやさん」として出店させていただきました。

夕方からM'sコミュニティさんのスペースの一部に、小さなビニールプールを設置させてもらい、ヨーヨー釣りの準備をしていたところ、スタッフの高校生のお嬢さんが手伝ってくださり大助かり。

1回150円で、少し高めの値段設定で売れるのか多少の不安もありましたが、祭りが始まると、どんどんお客さんが増えて、自分のお小遣いで買いに来てくれる子ども達や親子連れ、おばあちゃんに買ってもらう姿などがあり賑やかでした。

当日の参加メンバーは、安武・梯・田中・高倉でしたので、褒め上手が勢ぞろい！ヨーヨーが釣れると、「そんなに褒められると嬉しかろー！」といった感じで褒め言葉が溢れていました。子ども達も、照れくさそうに笑顔で帰っていくのが印象的でした。おかげさまで、完売しました。M'sコミュニティさんのスタッフの皆さんの、温かいお力添えにも感謝で楽しいひと時でした。 担当：高倉理事



4) 姪北校区夏祭りに参加しました 7月22日(土)

午後3時より、老人憩いの部屋で、パクパク人形作りの準備を開始する。牛乳パック、大、小はあらかじめカット済みで、用意していた。色紙の中から、ウサギ、カエルの口に使う赤色を選び、底の部分の大きさに60枚カットして、準備が整った。

午後5時30分より、開店する。机2脚に椅子を4脚配置したので、2人のお客さんに対応した。ウサギのカットは、曲線部分があり、児童にはハサミの使い方が、難しいように感じたので、手伝って形を整えた。最初は男子児童がチャレンジした。15分経過して、ようやく完成した。真剣な表情がとても頼もしく感じた。出来上がったパクパクカエルを大変気に入った様子で、友達に見せるのであろう勢いよく飛び出して行った。口の部分を予め用意したのは、正解であった。用意していなければもっと時間を要したと思われる。その後入れ替わりながら約30人の参加者があり、最後まで途切れることなく無事終了することができた、来年もまた是非実施したいと感じ、工作の出店を終了した。 担当：山下正会員



5) 子どもゆめ基金助成事業「森へ行こう！（親子で沢登り体験）」8月19日（土）

講師：西森綾子（森のようちえん「ぶらんこ」主宰）

活動：油山自然観察センター～沢登り体験～昼食～アスレチック

当日はいいお天気に恵まれ、絶好の沢登り日和となりました。福岡市内の児童館や市民センターへのチラシ依頼や西日本リビング新聞への掲載などにより、11家族総勢30名（子ども18名大人12名）の参加となりました。最初にNPOゆいのお話をさせていただきました。「子どもたちを取り巻く昨今の環境の中で、社会全体で育てていく視点がこれからは大切であると考え、様々な取り組みを行っており、その一つがこの“森へ行こう！”です。自然の中で遊ぶ心地良さを親子で感じてもらえると嬉しいです」

それから、準備や注意事項等の話が終わり、いよいよ沢へ向かいます。最初は緊張気味だった皆さんも、すぐに解れて、笑顔で水しぶき浴びながらどんどん進む姿が見られました。中には、カニやヘビ、岩の上でのんびりしているカブトムシに出会ったり、楽しい出会いもありました。沢から上がると、広場の木陰で



お弁当を食べて、簡単な自己紹介と今日の感想を一人ずつ話しました。初めての出会いでしたが、各々が自分の思いを素直に表現できていて、とてもいい雰囲気でした。終わることができました。次回も参加したいという嬉しい反応もあり、次の企画の展望も見えてきました。協力してくださった皆様ありがとうございました。

（指導者5名 西森・小川・井上・安武（ゆい）・高倉（ゆい） 学生ボランティア2名） 担当：高倉理事

6) わいわいこどもキッチンぷらす「1周年感謝イベント」 8月25日（金）

賛助会員をはじめ地域住民、行政関係の方々等総勢60名ほどのご参加を頂き、16時～19時までの3時間、にぎやかに楽しく開催できました。いつも来ている土日の昼間の参加者に加え、校区の夏祭りの呼びかけなどで参加して下さった方々から、「夕ご飯を作らなくて助かる」、「栄養のバランスがとれているうえにおいしい」、「ずっと続けてほしい」などのご意見をたくさんいただき、この1年間公民館で行ってきた活動の意義や方向性を改めて考えさせられました。また、同時開催に行われている「NPO いるかねっと」



さんの「学習支援」の活動とタイアップしたおかげで、ボランティアの先生方や学生たちとのつながりもできて、今までにない有意義な試みとなり、今後の活動内容をさらに深める1つの契機となりました。

来年もまたこのような素敵な時間をもてるように、メンバーとボランティアさん、そして参加者の皆さんと一緒に豊かな時間を重ねていきたいと思っております。地域は問いませんので、是非皆さんもお気軽にご参加ください！

（開催日時等のお問い合わせは、080-3949-5229 高木まで）

担当：高木理事

